

未来につながる 現在の足立区

区の花：チューリップ 区の木：桜



【チューリップ（都市農業公園）】、足立区

【桜（足立区役所）】、足立区

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際
(<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)

現在の足立区が位置する場所は、かつて海辺に接する低湿地帯で、たくさんの葦が生えていたことから「葦立ち」と呼ばれ「足立」になったという説があります。

江戸時代には湿地だったこの地に新たに人々が住み始め、足立区の大部分は米や野菜をつくる農村地帯となりました。

また数多くの工場や住宅ができ人口が増加、一九三二年、旧東京市に編入され「足立区」が誕生、一九四七年に東京23区のひとつとなりました。

「足立」の名前の由来と足立区

とくづつ くま かわらばん
特別玖磨 瓦版

号外



銭湯といえは足立区

江戸時代、日光道中の最初の宿場「千住宿」があったことで知られる足立区は、関東大震災以降多くの人が移り住み、戦後には集合住宅が増える中で銭湯が次々と開業しました。

観光資源としての銭湯

足立区では「銭湯は区の宝」と考え、銭湯を資源としたさまざまな取り組みを実践。



足立区立図書館一階にある陶製芭蕉座像

二〇一八年と二〇一九年には、足立区浴場組合、東武鉄道と共に行ったコラボ企画「足立銭湯スタンプラリー」では、通常は乗客を

乗せて走ることのない亀戸〜大師前間を特別運行するミステリートレイン「芭蕉の湯号」で参加者を楽しませました。



数は減っても...



特別区協議会発行「区政会館だより」No.395(3P)より抜粋。

※「5 四ツ谷浴場」は閉店、25件から24件に。(「銭湯といえは足立」HP: <http://adachi1010.jp/>にて確認。)

現在は24軒に減少しましたが、今でも個性的な銭湯も多く、

区内外の銭湯ファン

の注目を集めています。



小中学校の給食の残菜率を受けて

二〇〇八年度にはじまった「おいしい給食」事業」

農業区でもあり、青果・花卉専門の北足立市場のある足立区は、「おいしい給食日本一」をきっかけ、さまざまな取り組みを行ってきました。

近年では企業とのおいしい給食コラボ商品開発やレシピ本出版、映画やドラマとのタイアップなど、全国的にも大きな注目を浴びています。

食の足立区



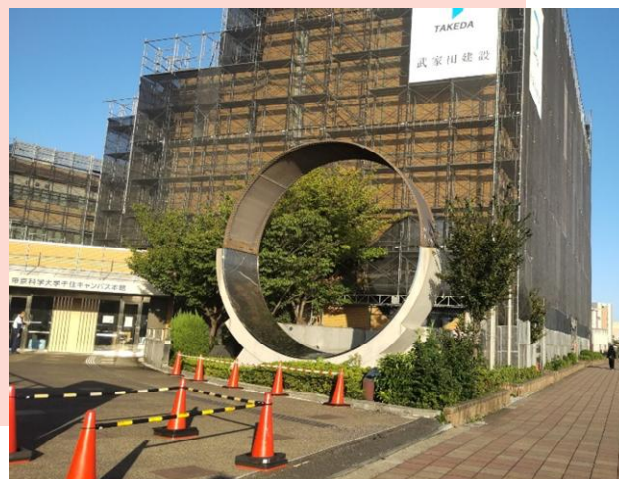
二〇一三年度に、「糖尿病」に的を絞った独自施策に舵を切った足立区。重点を置いたのは「野菜を食べる」こと。大型商業施設やコンビニエンスストアとも連携、野菜の摂取が少ない若い世代にも事業を届ける役割を果たしています。

「糖尿病」に焦点を当て、区民の健康づくりに
乗り出した「あだちベジタベライフ」

かつて千住宿だったまちに 若者が集う



かつておひげ煙突の愛称で呼ばれた千住火力発電所の煙突…
筒身部分が帝京科学大学構内にモニュメントとして残されている。
縮尺20分の1の煙突のモデルもあり、当時の見え方の変化を楽しむことができる。
(写真撮影当時は帝京科学大学の大規模修繕の時期だったようが残念。)



千住エリアにある5つの大学と、
二〇二一年四月に花畑にオープンし
た文京大学東京あだちキャンパスを
合わせ、足立区は専門分野の異なる
6つの大学に一万八千人もの学生が
通うまちになりました。

若者の流入により活気が生まれ、まちの景色やイ
メージも変わりました。

区民に開かれた講座やイベント、産学官連携など、
各大学の特色を生かした連携が進んでいます。

